

その
ところはっ
教えてください
そのワケを
#22



作業の手を止め話をしてくれた秀耕さん。

県道をはさんで広がるブルーベリー畑。避難により福島市に移転した「極久里珈琲」の市澤秀耕さん、美由紀さん夫婦（深谷）が、店舗の定休日に手入れを続ける「市澤農園」です。

「もっと手入れをしていかないとね。週1回では追いつかなくて」と秀耕さん。「それなりに収穫ができたのは昨年あたりから」だそうです。「極久里珈琲」でも、このブルーベリーを使ったケーキやジャムが、再び味わえるようになりました。

極久里の旧店舗で田中久美子さん（深谷）が営む「村カフェ753」のベーグル「いたてブルーベリー」にも、香り豊かなこのブルーベリーが、ふんだんに使われています。



極久里珈琲（福島店）にて。秀耕さんと美由紀さん。

暖かい日が続いた3月中旬の火曜日（極久里珈琲の定休日）。農園には、秀耕さんの姿がありました。ブルーベリーの足元には、オオイヌフグリが早くも満開。畑二面が愛らしい小花柄になっていました。「本当は畑をもっと広げていく予定だった」。それは震災の年に止まったままなのです。「そんな、かつこいものじゃないんだ。荒らしておけないから、やっているんだよ」と小さく笑って畑を見渡す秀耕さん。その眼差しの優しさが、この場所を大切に思う気持ちを物語っていました。

市澤農園にブルーベリーが実り始めたーそれは間違いなく、極久里ファンの胸に染みる、うれしいニュースです。



果実の食感を残した風味豊かな極久里のジャム。

村カフェ753のベーグル。

極久里珈琲のブルーベリー畑にて

市澤 秀耕 さん・美由紀 さん（深谷）

「福島アトラス」地図を掲示



制作過程もよく分かる拡大版を掲示。見応えあります。

交流センター「ふれ愛館」に掲示された大きな地図。NPO法人「福島住まい・まちづくりネットワーク」が制作した「福島アトラス」シリーズの飯館村版です。避難地域を丹念に取材しその環境や歴史までを取り込んだ「福島アトラス」は、手描きイラストの鳥瞰図や図解などその表現手法も魅力的。携帯版は無料配布中。

庁舎に漂う珈琲の香り



玄関ホールに設けられたブースで珈琲を販売。カップを持参する人も。

3月19日、役場庁舎に1日限りのカフェがオープンしました。地域おこし協力隊の松尾洋輝さんと弟の勇輝さんによる「エスペロ・カフェ」です。お昼が近づくと、玄関ホールから、かぐわしい珈琲の香りが…。昼休みになると同時に多くの職員が足を運んで、松尾さん達との交流と珈琲の時間を楽しんでいました。

●お願い●

交流センターから本を借りている方で、返却されていない方は、早めの返却をお願いします。

交流センター「ふれ愛館」だより
交流センター図書報告

令和2年度の図書貸し出しは、のべ1885人の利用がありました。図書の内訳としましては、児童書105冊、その他249冊、合計354冊の貸し出しがありました。その中でも雑誌「ハルメク」の利用が多く、今年度も購入していきたいと思えます。また、読みたい本がありましたらリクエストもお願いします。

移動図書館「こあら号」での貸し出しも行っており、ますので、ご要望がありましたらご連絡ください。



問 交流センター「ふれ愛館」
☎ 0244-42-0072

本の貸出時間
平日：午前8時30分から午後5時

令和3年3月10日現在

広報いいたて専用ハガキ！

お送りいただいたご意見や情報は「広報いいたて」の紙面づくりの参考にさせていただきます。また、いただいた情報を元に取材をさせていただきますので、お名前や連絡先のご記入もお願いいたします。

広報に関するご質問は、お便りやイラストなどご自由に。

お名前 ※必須
住所 ※必須
電話番号 ※必須
メールアドレス